

# あしたのまち

2016 草津市長選 中

## 新しい「結」を求めて

# 迫る高齢化と人口減少

のキャンパス開設などを受け、宅地やマンションの開発が進んだ。子育て中の親子の孤立化などが指摘され、2004年にナルクが広場を始めた。

湖南代表の清水博一さん(73)は「私たちも広場のみんなに元気をもらっている。幅広い世代が交流し、つながりを持つ場として工夫を重ねて、親子らと交流を深めている。ナルクびわこ

4年ほど前からは、介護予防のための体操教室も始めが進んだ。子育て中の親子の孤立化などが指摘され、2004年にナルクが広場を始めた。

湖南代表の清水博一さんは「私たちも広場のみんなに元気をもらっている。幅広い世代が交流し、つながりを持つ場として工夫を重ねて、親子らと交流を深めている。ナルクびわこ



量に横になつたり、おもちゃを手にはしゃいだり……。JR南草津駅前にある草津市民交流プラザの和室に子どもたちが集まっている。NPO法人「ナルクびわこ湖南」運営の子育て支援の広場「ふあ・ふあ」だ。60~80代のボランティアが週1回、季節の催しや紙芝居などをしながら、親子らと一緒に時間を過ごす。

「今、何? グングン大きくなるなあ」。スタッフの渡辺日夫さん(75)が、そばに来た1歳の太田逸樹ちゃんを抱きあわせた。母の友里子さん(28)は「お年寄りとのふれあいがあつていい」と笑つた。



ボランティアが読む紙芝居を楽しむ親子ら=1月29日、草津市野路1丁目の市市民交流プラザ

人口増が続く草津市にも高齢化と人口減少の波が迫つている。市の「人口ビジョン案」では、人口減少が13小学校区のうち2学区ですでに始まり、30年にも市全体で始まるとしている。さらに第2次ベビーブーム期(1970年代前半)に生まれた世代が多い、他の自治体に比べて高齢化のピークが遅く、影響が大きいと想定している。

子育て支援や高齢者の見守り、災害時の支えあい……。対応していくには、地域コミュニティーの役割がますます重要になっている。町内会の加入率は横ばいだが、町内会そのものがない新興住宅地やマンションもある。地域を支える人と人とのつながりが希薄になりつつあるとの指摘は絶えない。

そんな中で、スマートフォ

は「私たちも広場のみんなに元気をもらっている。幅広い世代が交流し、つながりを持つ場として工夫を重ねて、親子らと交流を深めている。ナルクびわこ

は「私たちも広場のみんなに元気をもらっている。幅広い世代が交流し、つながりを持つ場として工夫を重ねて、親子らと交流を深めている。ナルクびわこ

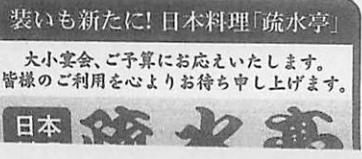


JR南草津駅周辺では、1994年の駅開業や立命館大

## 汚染木くず搬出計18ルート

実験に参加した市の運送業岡田英之さん(35)は「アプリの形なら、多くの人が協力しやすいと思う」と話した。見守りシステムを開発したIT企業「ナスカ」(栗東市)の井上昌宏社長(55)は、助け合いの「結の精神」が、システムの原点にあると言う。「社会の変化を踏まえて、誰もが手軽にコミュニティーの役に立てる仕組みをつくっていくことが重要だ」

(八百板一平)



装いも新たに! 日本料理「疏水亭」  
大小宴会、ご予算にお応えいたします。  
皆様のご利用を心よりお待ち申し上げます。

日本

閲覧を請求。最高裁は昨年12月、木くずが搬出された市町村名を伏せた上で、資

5県に計18の

などを通して生まれるつながりを生かす新たな試みも始まった。

1月月中旬、スマートフォ

「安心